

短観（24/9月調査、富山県分）の調査結果について

- ・ 本日、短観（24/9月調査、富山県分）の調査結果を公表しましたので、特徴点等をご紹介します。

1. 業況判断

- ・ 製造業、非製造業ともに、前回調査から悪化し、全産業の業況判断も、前回調査の+10から+2へと2期ぶりに悪化しました。
- ・ 特に、今回調査で判断を引き下げた先には、これまで「良い」と回答していた先が目立ちました。
- ・ 判断を変更した理由について、製造業では機材トラブルや猛暑等の一時的な影響を理由に判断を引き下げる先がみられました。非製造業では、建設工事等における資材高や人手不足の影響により判断を引き下げる先が多くみられました。
- ・ 先行きについては、非製造業では引き続き悪化を見込む一方、製造業では改善に転じる見込みです。この結果、全産業でも改善を見込んでいます。
- ・ 非製造業では、大型案件の一服などを理由に先行きの判断を引き下げる先がみられています。製造業では、医薬品や自動車・EV向けを中心に需要回復・増加を見込み、判断を引き上げる先がみられています。

2. 事業計画

（売上高）

- ・ 2024年度は、前年比+1.0%と小幅の増収計画です。製造業は、スマホや自動車向けの需要回復などにより増収計画となっています。非製造業は、新規出店効果などから増収計画となっています。
- ・ 前回調査との比較では、製造業で海外需要の見通し引下げや為替変動の影響がみられましたが、全産業では概ね前回調査並みの水準となりました。

(経常利益)

- ・ 2024 年度は、前年比▲28.2%の減益計画です。製造業は、仕入価格や物流費の高騰のほか、中国などの海外需要の減少により減益を見込んでいます。非製造業でも、仕入価格の高騰などにより減益を見込んでいます。
- ・ 前回調査との比較では、製造業は、売上高の下方修正を受けて、小幅下方修正となっています。一方、非製造業では、値上げやコスト削減の効果により、上方修正となり、全体でも上方修正となりました。

(設備投資)

- ・ 2024 年度は、前年比+14.9%の増加計画です。製造業は、能増投資や新規需要の取込みに向けた投資、合理化・省力化投資などが幅広くみられています。非製造業は、能登半島地震の復旧工事のほか、新規出店やシステム・情報インフラ等への投資がみられています。
- ・ 前回調査との比較では、製造業、非製造業ともに、上方修正となりました。なお、今回調査で下方修正した先を含めて、資材不足や人手不足を理由にした先送りする動きは見られませんでした。引き続き、留意して見ていきたいと思えます。

3. その他

- ・ 今回調査は、7月末の政策金利引き上げ以降、初めての短観調査でした。その影響から、「借入金利水準判断」については、「上昇」と回答する企業が増えましたが、「金融機関の借入態度判断」や「資金繰り判断」には、全体として、大きな変化はみられませんでした。
- ・ また、「販売価格判断」や「仕入価格判断」、「雇用人員判断」にも、全体として大きな変化はみられませんでした。
- ・ なお、能登豪雨の影響については、今回、織り込まれていません。

以 上